



ももの木は、白血病や悪性リンパ腫など**血液患者**の方々、
血液患者の**ご家族・ご友人**
医師、看護師など**医療スタッフ**、**ドナー**の方々など、
どなたでも気軽にマイペースでかかわることができます。
ご興味を持たれた方は是非、ホームページをご覧いただくか、
直接ご連絡をください!

《ももの木》

ホームページ <http://momonoki.org>
メールアドレス momo@momonoki.org

NPO
血液患者コミュニティ



ももの木

ももの木紹介

発足の経緯と趣旨	1
[活動内容] 交流会	2
[活動内容] ホームページでの情報交換	4
[活動内容] いのちの授業	5
[活動内容] 院内イベント	11
助成金取得、取材、組織	12



〔発足の経緯と趣旨〕

みんなで、ともに歩む

NPO 血液患者コミュニティ「ももの木」

現在、骨髄移植などの医療技術の進歩により、白血病や悪性リンパ腫といった血液のがんは“不治の病”から“不死の病”へと大きく変わりつつあります。こうしたなか病を克服した患者には、抗がん剤治療などの後遺症に加え、社会復帰など数多くの問題がのしかかっているのです。

血液患者コミュニティ「ももの木」は、患者やその家族が気楽に集まり、悩みを語り合える場の創設のために、東京大学医学部附属病院と東京都立駒込病院の血液患者を中心とした患者会として2000年に誕生しました。主催者は田中祐次医師(血液内科医、医学博士)で、田中医師が自らの担当者らに呼びかけたのが始まりです。当時のメンバーは両病院の患者や家族がほとんどでしたが現在では、首都圏に限らず全国のさまざまな病院の患者、患者の家族と、友人、医療スタッフやドナーにもネットワークが広がり、血液疾患に関わる様々な立場の人々が集う会になっています。

定期的な交流会を通じて交友を深める中、自分たちの闘病経験を何かの形で社会還元できないかという意見が高まりました。意見は実行に移され、ももの木独自の活動として、小・中学生や医療系教育機関の学生を対象にしたいのちの授業の実施、入院患者の気分転換のための大道芸やショー、コンサートなどの院内イベントの企画・運営、ホームページ上での情報交換などを行っています。ホームページには、2代目理事長、大橋医師のコラム「Kota先生の部屋」もあります。

2003年4月に特定非営利活動法人(NPO)となり、更に多くの方の協力を得つつ、継続的な活動をしていきたいと考えております。ももの木のモットーは「みんなで考え、みんなでともに歩いていく」ことです。

あなたもそんな仲間に加わりませんか。

〔活動内容〕交流会

ももの木の活動の核となるのが**交流会**です。血液疾患の患者のみならず家族、関係者が気兼ねなく集まり、語り合う場となっています。

患者の多くは、闘病のことや治療後の生活などたくさんの不安を抱えています。実際に経験した人の話を聴くことで、自分が考えていたことが取り越し苦労であることに気づくことも少なくありません。入院生活、治療のこと、退院後も抱える後遺症・副作用、また、治療終了後の社会復帰などの話を体験者から聴くことで“生きる”ことへの展望が確かなものになるのです。

患者家族の、「心配でいても立ってもいられない。しかし、何をすればいいのか、分からない」という気持ちに対して一番適切な助言ができるのも、患者自身や同じ立場にあった者です。

「抱えている問題を包み隠さず、ざっくばらんに話し合える場を探していたんです。同じ境遇にある人に話を聴いてもらい、共感してもらえることで、心が楽になるんですね」という参加者の声を聞くと、交流会という場の大切さを実感します。

患者を取り巻く不安は、古今東西問いません。2008年には、韓国の患者・家族が運営する血液疾患の患者会「韓友会」との交流会を開催し、日韓でよりよい患者支援の方法についての情報交換をしました。



交流会



交流会は、2ヶ月に一度、
偶数月に実施。
各自、飲み物と食べ物を持ち寄り、
3時間程度開催しています。
会員制ではなく、参加費も無料です。
ご関心のある方は
是非一度おいで下さい。



韓国交流会 in 日本

〔活動内容〕ホームページでの情報交換

ももの木のホームページ(<http://momonoki.org>)には、一目で活動内容がわかる「ももの木について」「ももの木からのお知らせ」や、コミュニケーションの場として「BBS」があります。BBSは、患者、患者の家族・友人、医療スタッフ、ドナーなどどんな立場の方でも、自らの



持つ疑問、意見、提案を投げかけることができるのです。しかも、全国どこからでもアクセスが可能です。

そこでのテーマは、骨髄移植についての疑問、術後の経過報告、抗がん剤・放射線治療への質問など患者が必要とする医療情報のみならず、再発への不安、いかに患者本人と接すればいいかという家族からの相談、ドナー

のこと、現代の医療制度への意見など多岐にわたります。提案された質問・意見には、活発な情報・意見交換がなされています。

ホームページ内には、大橋医師のコラム「Kota先生の部屋」を設置。お問い合わせメールからセカンドオピニオンといった病気についてだけでなく、心の悩みについての相談にも応じております。ももの木のホームページは、困った時に本当に役立つ「知恵袋」であり続けたいと考えています。

〔活動内容〕いのちの授業

ももの木では白血病、悪性リンパ腫などの患者のみならず、医療スタッフ、家族、ドナーが、それぞれの立場で命の尊さ、素晴らしさを伝えたいと願い、2002年より「いのちの授業」を実施。2013年5月には98回を迎えました。

看護学校といった医療系教育機関では、医療スタッフの卵たちに向けて、「闘病者の患者の思い」や「苦悩を支えてくれる人々が存在することの喜び」を講演しました。

小・中学校では、自らの闘病生活での体験を語り、子どもたちからの率直な疑問や質問に回答するといった対話形式を取っています。そうすることで、「命の大切さ」に気づききっかけとなる“心の種”を手渡したいと考えているのです。その種がいつしか自分自身の力で、また、友だちや保護者、先生方とともに「命の尊さ」を育て、花開くことをわたしたちは、願っています。

病を通して実感した“生きることの喜び”とたくさんの人たちによって支えられていることへの感謝を込めて、「命」を考える土壌づくりをすべく「いのちの授業」の活動をしています。



いのちの授業 in 小学校



胸が苦しくなるといって
いる状況

観察室
10月17日(木)
14年生(全)

治す方法

生きたくて生きられない人から
私を変えてくれる人らしい生きた
私もたれかを変えたい
今、何だろうと考えたい
「苦しい」と言う勇気を持つ、生きる

病気の心打して
あつたらしい?
話しかけてあげたい
はげまけてあげたい
見せてあげたい
いっしょにあげたい

笑顔でそばにいてあげたい
自分と打つておの考え
あつたい



【これまでの開催実績】

2002年	10月11日	東京都大塚看護専門学校
	12月2日	埼玉県狭山市立入間川東小学校(6年生、保護者)
2003年	2月5日	埼玉県狭山市立笹井小学校(5年生、保護者)
	3月19日	千葉県富里市立富里南中学校(1,2年生)
	6月14日	埼玉県狭山市立入間川小学校(5,6年生、保護者)
	6月18日	埼玉県狭山市立廣瀬小学校(5,6年生、保護者)
	7月11日	埼玉県立盲学校(中等部、保護者)、東洋大学福祉学科
	10月30日	埼玉県狭山市立富士見小学校(6年生、保護者)
	11月19日	埼玉県狭山市立笹井小学校(5年生、保護者)
2004年	2月13日	東京都東村山市立大岱小学校(保護者、地域の方)
	2月24日	東京都荒川区立第六日暮里小学校(6年生)
	3月1日	千葉県成田市立吾妻中学校(全学年、保護者)
	3月3日	東京都荒川区立第三日暮里小学校(6年生)
	3月12日	東京都荒川区立第六瑞光小学校(6年生)
	6月2日	東京都荒川区立瑞光小学校(5,6年生、保護者、地域の方)
	9月27日	東京都荒川区立第一中学校(1年生、保護者)
	11月24日	埼玉県狭山市立笹井小学校(5年生、保護者)
2005年	3月14日	東京都荒川区立第六瑞光小学校(6年生、保護者)
	4月27日	宮の前診療所<東京都荒川区>宮の前保健塾(地域の方々)
	6月3日	東京都荒川区瑞光小学校(5,6年生、保護者)
	10月31日	東京都新宿区立落合第五小学校(5,6年生、保護者)
	11月28日	東京都文京区立林町小学校(5年1組、保護者)
	12月7日	東京都文京区立林町小学校(5年2組、保護者、道徳研究部の先生方)
2006年	1月26日	東京都新宿区立落合第五小学校(5年生)
	2月4日	東京都文京区立根津小学校(6年生、保護者、地域の方)
	2月7日	東京都新宿区立落合第五小学校(5,6年生)
	3月17日	東京都荒川区立第六瑞光小学校(6年生)
	4月26日	宮の前診療所<東京都荒川区>宮の前保健塾(地域の方々)
	6月5日	東京都荒川区立瑞光小学校(5、6年生、保護者)
	6月17日	東京都新宿区立落合第五小学校(6年生)
	6月26日	栃木県立今市高等学校(1,3年生)

	10月13日	東京都板橋区立緑小学校(4年生、保護者、地域の方)
	10月25日	東村山市立久米川東小学校(6年生、保護者)
2007年	2月9日	横浜国立六ツ川台小学校(5年生、保護者)
	2月14日	府中市立日新小学校(4、6年生)
	2月22日	東京都新宿区立落合第五小学校(6年生)
	3月1日	慈恵柏看護専門学校
	3月12日	東京都荒川区立第六瑞光小学校(5、6年生)
	5月9日	東京荒川ライオンズクラブ
	6月6日	宮ノ前診療所<東京都荒川区>宮ノ前保健塾(地域の方)
	8月28日	伊藤塾
	10月17日	東京都荒川区立瑞光小学校(5、6年生、保護者)
	10月27日	東京都荒川区立汐入小学校(4、5年生、保護者)
	12月6日	調布市立染地小学校(6年生、保護者)
2008年	2月1日	東京都新宿区立落合第五小学校(1年生)
	3月4日	東京都目黒区立菅刈小学校(6年生)
	3月13日	東京都荒川区立第六瑞光小学校(6年生)
	3月26日	伊藤塾
	6月7日	東京都板橋区立金沢小学校(4、5、6年生、保護者)
	9月12日	東京都江戸川区立江戸川小学校(6年生)

2013年5月現在、いのちの授業98回

ご関心のある方へ

「いのちの授業」実施までの流れ

① 授業前の事前打ち合わせ(授業のねらいや形式についての説明と確認)

② 当日の授業

45分授業の場合：20分間の講演、その後質疑応答

90分授業の場合：スピーカーの人数や、もの木メンバーを含めたグループディスカッションで質疑応答を受けるスタイルなど、

ご要望に応じた組み立てをご提案しております

*詳細につきましては、ホームページからお問い合わせいただけます。



【いのちの授業に寄せられた感想】

“いのちの授業”を受講した小学生、保護者、先生方から感想が届いています。

【小学生】

- ◇ ぼくは今日の話で、病気をなおす薬のつらさや苦しさに打ち勝つ力、自分を信じる事、仲間が存在、そして何よりも病気をなおすという気持ちがあって初めて病気がなおるということを知りました。(小学4年生)
- ◇ 私は生きていて「命」をふり返ることはありませんでした。今日、「命ってすべてにつながる」ということを考えました。今、明日を信じて今日が生きていることが幸せだと思いました。(小学5年生)
- ◇ 私は、これまで何度か「いやだ、死にたい」「自分は何のために生まれてきたのだろう」と思ったことがあります。でも、今日の「いのちの授業」で生きてたくても生きられない人がたくさんいることを知りました。私はこれからどんなにつらい事があっても死にたいなんて思わない。前向きに生きていこうと思いました。(小学6年生)
- ◇ ドナーさんみたいに会ってもいないのに、自分のものをあげる人がいることを初めて知りました。それに人のために喜んでなみだを流してくれる人がいることも初めて知りました。病気になっても生きたいと思ってがんばっている人がいると思うと、自分もがんばらなきゃと思います。(小学6年生)

【保護者】

- ◇ 精一杯、涙をこらえながら話してくださり、病気の体験談を何うだけでなく生きることについて考えさせられました。子どもたちもよい経験になったようですので、家でも話してみようと思います。これからも、子どもと楽しく過ごすことを大切にしようと思いました。
- ◇ 「命は大切」ということはわかっているつもりでも、本当に実感できるのは、何か命に関することを体験することが必要な気がします。子どもたちが直接体験するのはほとんどないことで、今回のような実体験の話を開ける機会はとても貴重でした。
- ◇ 苦しい闘病生活の中で、生きる意味を見出すまでの素直な気持ちが伝わり、心に強く響き感動しました。ふだん、何気なく生活していることが当たり前でない、奇跡の積み重ねであることに改めて立ちもどるチャンスをいただきました。



【先生方】

- ◇ 講演者さんの入院中の写真を見て、今の姿からは想像しにくいからこそ、「生きる」ことの意味や命について考えることができたのだと思います。
- ◇ 死を覚悟したことのある方の話は、子どもたちの心を揺さぶったようで、たくさんの子どもの心に生きる力を与えたと思います。
- ◇ 生きていることがどれほど素晴らしいかについて、とても大切なことを教えていただきました。「死」を前にした方の「生」の重みは、「本物」として子どもの心に残り続けるのだと思います。自分に与えられた時間を大切に生きていくことを、私も私が感じたなりに伝えてみたいと思っています。



【活動内容】院内イベント

長期の入院生活を余儀なくされる血液疾患の患者や、友だちと離れ闘病生活を強いられる小児科で治療を受ける子どもたちを対象に、大道芸やマジックといったショー、院内コンサートなどのレクリエーションを企画しています。少しでも闘病中の気分転換になれば、という願いを込めての活動です。「病院でも、何かイベントがあったら長期の入院も気が紛れるのに」というメンバー自らの入院体験から実施の運びとなりました。

小児科で開催する院内イベントでは、子どもたちの可愛い笑顔に、逆に私たちが励まされています。白血病患者支援のための資金作りを目的に、チャリティイベント「Hot一息 チャリティ落語会」をNPO血液情報広場・つばさと共催して開催することなどもしてきました。

【これまでの実施実績】

- 2001年 3月 <東大病院血液内科>大道芸
- 2001年 9月 <東大病院血液内科>大道芸
- 2001年 12月 <東大病院>ゴスペルコンサート
- 2003年 5月 <都立駒込病院血液内科>大道芸
- 2003年 7月 <千代田区公会堂>チャリティ落語会
- 2004年 3月 <東大病院小児科>大道芸
- 2004年 5月 <東大病院小児科>パンダレンジャーショー
- 2004年 10月 <東京医科歯科大病院小児科>
大道芸と絵本の読み聞かせ
- 2006年 6月 <駒込病院>大宮フィルオーケストラ コンサート
- 2006年 11月 <駒込病院>アロマ教室 ハーブ石鹸作り
- 2006年 12月 <駒込病院>大宮フィルオーケストラ クリスマスコンサート
- 2007年 3月 <駒込病院>わくわく講座 杉のカゴ、コースター作り
- 2007年 9月 <駒込病院>マジックショー
- 2007年 11月 <駒込病院>東大ジャグリングサークル「マラバリスタ」
ジャグリングショー



【公募助成金】

オラクル有志の会ボランティア基金(2002)
キリン福祉財団公募助成(2004)
2005年度 ドコモ市民活動団体への助成
2008年度 財団法人 正力厚生会 がん患者団体助成事業
2013年度 アステラス製薬(株)スターライトパートナー(患者会支援)活動助成

【受賞】

読売ブルデンシャル福祉文化賞(大賞)(2004)(副理事長大橋晃太受賞)

【取材】

【医学雑誌】

「Medical Tribune」 03/2/6号「人・ひと・ヒト」
「がん治療最前線」 02/3月号
月刊「がん」 03/8月号
「看護教育」 vol45, No.5(2004)
「看護教育」 vol45, No.7(2004)
「がんを治す完全ガイド」 04/11月号
「がんを治す完全ガイド」 05/1月号
「がんサポート」 05/2月号
「小四教育技術」(小学館) 05/7,8月合併号
「生命尊重の心をはぐくむ—「いのち」の実感を深める全教育活動—高学年」(東洋館出版社) (05/9)
「がんサポート」 05/12月号
「看護管理」 vol.16, No.3(2006)
「がんサポート」連載 <ももセンサーの患者とともに> 07/3月号～

【TV】

NHK首都圏ニュース「いのちの授業」2004/3/24

【新聞】

読売新聞 02/10/20朝刊 04/4/2朝刊
朝日新聞 03/7/24夕刊 04/2/26朝刊
日本経済新聞 03/10/21夕刊
産経新聞 04/3/11朝刊 04/6/4朝刊
日本教育新聞 04/3/5

【その他】

(財)骨髄移植推進財団HP(ドナーズネット)「We need your help !」(2003)
光村図書出版ホームページ「光村チャンネル」教科通信 道徳「きみが いちばん ひかるとき」No.1(08/4)
http://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyoka_info/doutoku/

【組織】

NPO法人 血液患者コミュニティ ももの木
理事長 大橋 晃太(血液内科医, 白血病患者)

【所在地】

東京都

【連絡先】

080-4637-3030

〈ももの木〉

ホームページ <http://momonoki.org>
メールアドレス momo@momonoki.org

ももの木は
みなさまのご寄付や助成金により活動しております。
活動を支える、ご寄付・ご支援を
募集しております。



<ご寄付お振込先>

みずほ銀行 動坂支店(普) 8036229
NPO 血液患者コミュニティももの木

頂きましたご寄附は、活動資金として大切に使用させていただきます。
理事長以下メンバー一同心より感謝申し上げます。

発行人：大橋 晃太

発行：NPO 法人血液患者コミュニティ ももの木

印刷製本：メディアツリー株式会社

本書の一部あるいは全部について無断で複写、複製することは禁じられております。

Copyright © momonoki All rights reserved.